

〔 横浜市芸能センター（横浜にぎわい座） 〕  
平成 24 年度 業務報告  
〔公益財団法人横浜市芸術文化振興財団〕

1 施設の概要

施設名	横浜市芸能センター 横浜にぎわい座
所在地	中区野毛町 3-110-1
構造・規模	鉄骨鉄筋コンクリート造 地下 3 階地上 13 階建ての地下 2 階から地上 4 階、及び地上 5 階部分の各一部を専有
敷地・延床面積	専有面積 4358.97 m <sup>2</sup>
開館日	平成 14 年 4 月 13 日

2 指定管理者(代表構成団体)

法人名	公益財団法人 横浜市芸術文化振興財団
所在地	横浜市中区北仲通 4-40 商工中金横浜ビル 5 階
代表者	理事長 澄川 喜一
設立年月日	平成 3 年 7 月 10 日
指定期間	平成 23 年 4 月 1 日から平成 28 年 3 月 31 日まで

### 3 指定管理者に係る業務総括

#### 平成 24 年度の総括

##### 【自主事業】

開場十周年という機会を活用し、新たな顧客獲得と施設の認知度の向上をめざしたプロモーションと、十周年にふさわしく、かつ「横浜にぎわい座ならではの」充実した番組を企画・実施しました。

また、「学校プログラム」のほか、区役所等の落語企画開催への協力、福祉施設での落語会の実施、職員による外部施設でのレクチャーなど、施設の外でのプログラムにも積極的に取り組みました。

収支面では、主催興行の積極的なプロモーションや事業支出の圧縮を行い、一定の効果を得ましたが、収支均衡には届きませんでした。次年度に向けて、収支の厳しい公演を中心に、さらなる精査を進めました。

##### 【施設運営】

大衆芸能分野の専門文化施設として、利用促進に向けて新たな「利用案内チラシ」を作成し、市内中心に周知を図り、関連団体に積極的な利用を呼びかけました。また、和物稽古案内紙や美術情報媒体などへの積極的な情報提供を行い、掲載実績に結びつきました。来場者への新たなサービス提供の要望に応えるとともに、利用者満足の向上につなげました。

##### 【施設管理】

文化施設運営の基本原則である「安全・安心・快適」な環境提供に努め、比較的に高齢者層の来場者が多い施設としてバリアフリー面やホスピタリティ面への細やかな配慮した管理運営を心掛けました。日常的な施設管理については、委託会社との月例連絡会などでの設備管理現況の確認と情報共有を図り、優先度に応じて必要な修繕をおこないました。

運営サービスの質を維持しつつ健全な経営にむけて、引き続き業務改善等に努めて支出の見直しを図るとともに、事業および利用料金収入の増加に向けて、増収への取り組みとあっという間の広報・販促活動に努めます。

## 4 自主事業に関する総括

### (1) 鑑賞機会提供の安定的開催と充実について（鑑賞機会提供事業）

■ 経常事業として、寄席形式の「有名会」、真打4名によるネタ出し公演「名作落語の夕べ」、独演会・一門会といった基幹シリーズ等を実施する「企画公演」に加え、開場十周年記念に見合った華やかで、かつ、幅広い層のニーズに応える公演を実施します。

達成指標	実施内容報告
<p>■ 大衆芸能専門として、「常打ち公演(毎月1日～15日)」を中心とした主催事業を年間250公演以上実施します。</p> <p>■ 各月2公演以上の大入り(入場数300名以上)を達成。</p> <p>■ 開場十周年を契機に「有名会」入場者の拡充のための施策(バックステージツアー等の付帯事業実施、特定日や特定対象への入場料割引設定、チケット購入者へのポイントカード発行等)を実施。「有名会」への来場習慣の定着を図り、平成23年度実績の10%増の集客を目指します。</p>	<p>■ 年間で主催公演を254公演実施しました。</p> <p>■ 年間で61(内小ホール公演21)の公演で大入りを達成しました(月平均5.25回)。</p> <p>■ “仲入り後割引”や、十二月興行での開場十周年特別割引、公演チラシのデザイン改訂の実施、また団体客誘致のための各種割引提携の拡充、神奈川県浴場組合との広報協力等を実施しました。結果として、「有名会」入場者数も、前年度比で18.7%増、1700名超の増加となりました。</p>

### (2) 横浜にぎわい座からの創造発信（創造発信事業）

■ 大衆芸能の伝統を継承しながら、新たなものを発信していくことを目指して、「企画公演」の中で、将来の「再演に耐えうる」企画を実施します。

■ 「創造の場」として近隣に位置する「急な坂スタジオ」「STスポット横浜」との連携による、新進芸術家の作品制作の支援と発表機会を提供する「坂あがりスカラシップ」を継続実施します。

達成指標	実施内容報告
<p>■ 創造発信公演として、これまでの実施してきた企画の再演、または、新規の内容による公演を1回以上実施し、大入り(入場300名以上)を目指します。</p> <p>■ 「のちに続いてゆく作品」としての評価を得られることを目指します。</p> <p>■ 新進アーティストの制作活動を支援するとともに、これまで支援してきたアーティストの公演を1回以上、にぎわい座で開催し、その成果を広く発信します。</p>	<p>■ 新規の作品として、8月に江戸糸あやつり人形と俳優の競演による、落語「品川心中」を土台とした公演を実施しました。また、1月には、明治初期～昭和初期に人気を博した節劇(芝居の説明部分が浪曲でなされる劇)の新作公演を開催し、大入りを達成しました。</p> <p>■ 桂歌丸館長による「語り直して 三遊亭圓朝作 怪談 真景累ヶ淵」は、過去の優れた作品に、名人ならではの口演で新たな命を吹き込み、後世に継承していく創造的な取り組みです。春秋2公演実施しました。</p> <p>■ 「坂あがりスカラシップ」については、今年度は事業の枠組みを発展的に見直し、3年間かけてじっくり支援をするスキームに変更しました。今年度の支援対象者を1名選出しました。また、7月に昨年度からの継続支援アーティスト木ノ下氏が主宰する「木ノ下歌舞伎『義経千本桜』」を芸能ホールにて開催し、好評を博しました。3月下旬には、前年度からの継続支援アーティスト白神ももこ氏の主宰するモモンガ・コンプレックスの新作ダンス公演を新たに他劇場と連携をして開催しました。</p>

(3) 横浜にぎわい座を拠点とした若手実演者育成について (若手実演者等人材育成への取り組み)	
<p>■ 芸能ホール公演を中心に、若手真打、二ツ目の演者をはじめ、若手演者を積極的に登用した企画を実施します。</p> <p>■ 開場十周年記念事業を視野に、小ホールの若手育成公演である「登竜門シリーズ」を継続して実施するとともに、その演者が小ホール公演で勉強を重ね芸能ホール公演開催へとつながっていった出演者との競演公演などを開催します。</p>	
達成指標	実施内容報告
<p>■ 若手実演者を中心とした公演を年7回以上、各回100名入場目標で開催します。</p> <p>■ 小ホールでの若手育成公演の年間12回以上の開催と、この企画の過去シリーズへの出演者との競演企画の実現(1回以上)により、『小ホールで研鑽、芸能ホールへ』という形を来場者にもアピールし、若手実演者を応援する機会づくりに努めます。</p>	<p>■ 芸能ホールでは、若手実演者を中心とした公演を、7回開催しました。うち、6公演で100名以上の入場者数を達成し、そのうちの2公演については大入となりました。</p> <p>■ 小ホールは、若手育成公演を26回開催しました。また、小ホール公演に出演している若手実演者を中心とした芸能ホール公演も3回実施し、出演者自身から来場者に『いずれは芸能ホールで定期開催を』と語り、今後の展開への関心喚起の機会になりました。</p>

(4) 多様な世代に向けた教育普及活動の拡充について (体験学習事業)	
<p>■ 大衆芸能の伝統を継承・発展させるとともに、大衆芸能を活用した次世代の育成を推進するため、「学校プログラム」や「寄席体験プログラム」等を行います。</p> <p>■ 「有名会」等の経常事業を活用して、子供への大衆芸能の鑑賞機会の増加をはかります。</p>	
達成指標	実施内容報告
<p>■ 「学校プログラム」のコーディネーター業務を2回以上行い、学校カリキュラム内で芸術体験の機会を提供します。</p> <p>■ 「寄席体験プログラム」の継続開催により、「寄席」の魅力を感じてもらいます(1500名以上)。</p>	<p>■ 「学校プログラム」を、年度内に3校で実施しました。</p> <p>■ 「寄席体験プログラム」は、7/2～5と9/4～6の7日間開催し、16校1,524名の参加でした。また、次年度の開催に向けて、学校・落語芸術協会と調整を開始しました。</p>

(5) 連携による大衆芸能振興の展開について (連携事業)	
<p>■ 23年度に協働企画を実施した「象の鼻テラス」のような大衆芸能との関係性や実績がない施設と連携した企画を実施していきます。</p> <p>■ 「NHK文化センター」等との連携により、幅広い層に向けた大衆芸能や寄席の魅力を学ぶ講座を開催していきます。</p> <p>■ 財団内の専門館施設間のネットワークの強化のため、専門施設の担当者間で、定期的、かつ緊密な情報交換や連携のための場を設けます。</p>	
達成指標	実施内容報告
<p>■ 他の施設や組織への積極的な大衆芸能に関する情報やノウハウの提供、企画制作への協力を行うことで、大衆芸能のすそ野の拡大を図っていきます。(年間10件以上の情報提供・制作協力を実施)</p> <p>■ 全年齢に向けて、経常企画と連動したレクチャー企画や体験講座を3回以上開催し、公演以外で大衆芸能への接点を提供します。</p> <p>■ 専門施設間連携プロジェクト内のミーティングを定期的に開催(月1回程度)していくことで、情報共有・蓄積を積極的に行い、施設運営の一層の円滑化とサービスの向上に努めます。</p>	<p>■ 神奈川県自治会町内会連合会での落語企画への協力、西区の福祉施設での落語会の開催、緑区市民活動センターでのサロン活動支援(職員によるレクチャー)、中区の高齢・障がい支援課の「デイ銭湯」での落語会開催の検討、大学の生涯学習講座への企画協力など、10件の企画協力・相談受付をしました。</p> <p>■ 8/16に「寄席文字体験教室」、12/3「野毛まちなかキャンパス」での講座開催、1/30「MMcc 会員向け寄席体験企画」を実施しました。</p> <p>■ 年3回の会議を開催。定期的な会議の場以外でも、担当者間で積極的な情報交換をしました。</p>

**(6) 大衆芸能に関わる市民活動への支援について（市民協働による事業や運営の展開）**

- 大衆芸能に関連する活動に取り組む施設や組織に向けて、にぎわい座が蓄積している情報やノウハウ、ネットワークを積極的に提供していきます。
- 大学生のインターンシップや、小中高校生の職業体験等を積極的に受け入れていきます。
- 大衆芸能に関する疑問や問い合わせに対して、スタッフの派遣等も含めた、丁寧な対応を行っていきます。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■「野毛大道芸」「野毛まちなかキャンパス」について、広報協力や展示やレクチャー企画への会場提供(年3回以上)への協力します。</li> <li>■学生の受入れ(年5名以上)を実施。地域の中に存在する「演芸場」としての存在感をPRしていきます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■「第38回野毛大道芸」への開催協力と、「野毛大道芸フォトコンテスト2012」への展示会場の提供を行いました。</li> <li>また、11月～1月にかけては、「野毛まちなかキャンパス」の中で、にぎわい座企画の講座の開催(1回)と、会場の提供(2回)、広報面で協力をしました。</li> <li>■中学生の見学・職業体験を3校17名、大学生インターンシップを3校4名、職場見学1名を受け入れました。また、海外からのインターンシップを1名受け入れました。</li> </ul>

**(7) 大衆芸能情報センターとしての情報拠点化について**

- 開場十周年記念の企画展を中心に、情報コーナーを活用した情報発信の充実に努めます。
- チラシラックの増設を検討し、情報コーナーに定期的に立ち寄りたくなるよう目指します。
- 公演情報の蓄積のため「電子大福帳」データベースの維持をしていきます。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■開場十周年記念企画の特別展示のほか、大衆芸能関連展示を年3回以上開催します。</li> <li>■館内のチラシラックの増設や効率的な配置方法を検討します。</li> <li>■「電子大福帳」へ、すべての主催公演の情報(公演日、演者、ネタ等)の入力を行い、今後の企画検討の際の資料として役立ちます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■開場十周年記念企画「横浜にぎわい座が産まれた頃2002年」をはじめ、「中嶋修 横浜にぎわい座を描く(10年間のスケッチと立体)」、「野毛大道芸フォトコンテスト2012 入賞作品発表」、開場十周年に寄せられた色紙を中心とした「色紙とてぬぐい展」、公演関連企画「お笑いぱっちり倶楽部写真展」を開催しました。</li> <li>■チラシ配架コーナーのほか、桂歌丸館長等身大パネル記念撮影コーナーの人気に伴い、公演前後を中心に情報コーナーに立ち寄る来場者が目立つようになりました。</li> <li>■「電子大福帳」は、演目の検討など公演企画に活用しています。引き続き、継続的な入力に努めます。</li> </ul>

**(8) 地域活性化への貢献について（街のにぎわいづくりへの寄与）**

- 地元の地域活性化のための団体である「野毛地区街づくり会」との連携を中心として、街のにぎわいの創出に寄与していきます。
- 施設の立地する「中区、および西区」の区役所等との連絡体制を強化し、住民に向けた施設の知名度アップや来場機会の増加を図っていきます。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■地域の飲食店等と連携した割引制度や集客・広報活動を実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■周辺地域の飲食店等と連携した「野毛通手形 Season IV」に参加しました。</li> <li>また、県の公衆浴場業生活衛生同業組合と提携し、日本の伝統文化の場である「銭湯」と「寄席」を組み合わせた広報展開を行いました。</li> <li>野毛街づくり会にぎわい座利用促進委員会による利用</li> </ul>

<p>■地域の組織や中区・西区役所のイベント等の中で、施設のPR活動を展開していくことで、施設への来場者を増やすとともに、立地する「野毛地区」への注目度のアップをはかります。</p>	<p>枠において、「野毛地区カラオケ大会」が初めて開催され、地域活性化と交流の場として盛況でした。また、にぎわい座は審査と参加賞提供で協力を行いました。</p> <p>■西区役所と連携した区内新規転入者に対するチラシ配布(通年 6,000 枚程度配布)や、MM地区企業の有志メンバーの会であるMMccへ参加しました。また、1/30 の「MMcc企画」では、地元の飲食店にケータリングを依頼し、野毛地区に不案内なみなとみらい地区の方たちにも好評を博しました。</p> <p>中区については、「ハローよこはま 2012」への協賛のほか、広報中区版への施設紹介が掲載されました。</p>
---	--

(9) 市の文化政策との連携について (都市戦略との連携)	
<p>■「横濱ジャズプロムナード 2012」会場のひとつとして、のげシャレにおける公演を市民とともに実施します。</p> <p>■横浜市芸術文化教育プラットフォームと連携した、教育普及目的アウトリーチ事業「学校プログラム」に参加します。</p> <p>■のげシャレで開催する「坂あがりスカラシップ」公演で、TPAMに参画します。</p> <p>■「野毛大道芸フェスティバル」「野毛まちなかキャンパス」等の地域の活性化イベントに参加・協力します。</p>	
達成指標	実施内容報告
<p>■横濱ジャズプロムナードに、のべ 2 日間参加。横浜都心部の活性化や市民協働の推進に寄与します。</p> <p>■「学校プログラム」に、2 プログラム以上参加。大衆芸能の創造性を活用した次世代の育成を目指します。</p> <p>■TPAM1 公演参加。若手アーティストと国内外ディレクターとの接点を創出するとともに、海外からの来訪者に日本の伝統的大衆芸能施設を紹介し、国際交流活動の一端を担います。</p> <p>■2F展示コーナーを、大道芸フェスティバルの写真展に 1 回以上提供します。</p> <p>■「野毛まちなかキャンパス」に、1 回以上の講座提供、2 回以上の会場提供を実施。野毛地区の活性化に寄与します。</p>	<p>■横濱ジャズプロムナードでは、実行委員会事務局側の意向により会場として 1 日開催となりました。にぎわい座からは会場提供と、職員 2 名が実行委員会側のチーフとして参加することで、実施に協力しました。</p> <p>■「学校プログラム」を、年度内に3校で実施しました。</p> <p>■TPAMへは「ディレクション・プラス」というフェスティバルでも主要な位置付けで参加し2団体の公演を実施しました。国内外ディレクターも多数来場し、若手アーティストとの交流も盛んにおこなわれ、実際に海外公演も決定するなどネットワーク構築に貢献しました。</p> <p>■2階展示コーナーを提供して、6/15-7/18 に「野毛大道芸フォトコンテスト 2012」が開催されました。</p> <p>■11～1 月に、「野毛まちなかキャンパス」での講座実施(1 回) / 会場提供(2回)をしました。</p> <p>■「Dance Dance Dance @ YOKOHAMA 2012」の連携プログラムとして認定を受けた 1 公演を実施しました。</p>

## 5 施設運営に関する業務総括

### (1) 大衆芸能専門館としての顧客満足度の高い運営について

- 大衆芸能利用が多い劇場のリサーチを行い、より利用者のニーズに沿ったサービスを提案します。
- 来館者へのサービスとして、野毛の街と連携してグルメ情報の提供とお弁当のリニューアルを行い、更なる顧客満足度の向上を目指します。
- 過去の利用例等に基づいた貸館研修を実施します。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■大衆芸能利用の多い劇場のリサーチ活動を 2 件以上行い、大衆芸能専門館ならではのサービスを 1 件以上導入します。</li> <li>■年度内に「野毛グルメマップ」を 1 刊発行(10,000 部発行)、のげ茶屋販売の弁当改良を 1 種類以上行います。</li> <li>■実践的な貸館研修を年度内 1 回以上実施します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■国立劇場や繁昌亭など大衆芸能の催しが多い劇場の利用サービスについてリサーチを実施しました。過去の自主興行の舞台仕様データを大衆芸能の利用者に提供し、設営アドバイスをおこないました。</li> <li>■野毛飲食業協同組合と協議を行い、貸館の利用内容にあわせて弁当の種類を変えたり、野毛地区飲食店によるケーターリングをおこなうなど、利用者のニーズに応じた新たなサービスを導入しました。 また、お客様より問い合わせの多い、野毛のランチ情報を収集し、案内 MAP 作成の準備を進めました。</li> <li>■11 月と 2 月に全スタッフを対象に講習・実践を合わせた貸館研修を実施しました。</li> </ul>

### (2) 施設の利用促進・利用開発による利用率向上について

- 施設の利用促進を図るべく、特に平日に空きがある小ホールを中心に新たな割引制度を導入します。また、割引制度の周知と併せ、各種メディアに積極的に施設の PR 活動を行います。
- 動画配信環境の再整備を行います。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■新たな利用割引制度導入により、新規顧客の獲得及び定着を図っていきます。</li> <li>■貸館利用者の動画配信サービス提供を年度内に 1 件以上実施し、横浜にぎわい座の PR に繋がります。</li> <li>■芸能 H:80%、小 H:60%、練習室:75%、制作室:40%の利用率を達成し、利用料金収入の向上に努めます。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■様々な利用形態に対応できるよう、利用要綱改訂をすすめました。</li> <li>■利用率向上、利用料金増収に向け芸能ホール単独のセールスチラシを作成し、教育委員会や大衆芸能の利用団体等に PR を実施しました。</li> <li>■大衆芸能向けの稽古案内や美術系の情報媒体に練習室・制作室の室場紹介を掲載しました。</li> <li>■貸館利用者による動画配信利用はありませんでしたが、NHK横浜放送局 JAZZ ライブ公開生放送番組開催において、館内光回線を利用した中継協力をおこないました。</li> <li>■利用率 芸能 H:77%、小 H:55%、練習室:65%、制作室:35%</li> </ul>

### (3) ニーズに基づくサービスの向上について

■自主事業へのアンケート挟み込みと2階情報コーナーへのアンケートボックス設置を行い、立ち寄られたお客様のニーズの把握に努めます。また、アンケートに寄せられた苦情については、職員間での情報共有に努めます。

達成指標	実施内容報告
<p>■年間155件以上の自主事業公演へアンケート挟み込みを実施します。</p> <p>■アンケート等によるお客様ニーズを踏まえ、新たに開発した「グッズ」を年度内に1種類以上提供します。</p>	<p>■年間を通して事業及び展示等来場者向けアンケートを256件実施し、お客様ニーズの把握に努めました。さらにアンケート結果について、職員間での情報共有と改善努めました。</p> <p>■開場十周年記念オリジナルグッズ4種類に加え、新たに湯呑みとハンディダイナモライトのオリジナルグッズ2種類を販売し、お客様より好評を得ました。また、前年度好評を博した福袋を今年度も正月に用意して販促に努め、その結果、完売となりました。</p>

### (4) 広報取組みについて

■横浜にぎわい座の魅力や価値をより明確に表現するとともに、それを元に事業内容や広報業務のブラッシュアップを行います。その上で、プロモーション上活用できるすべての方法を改めて体系的に把握し、これまで行ってきた広報活動を、より効果的、効率的なものに改善します。

■より幅広い層へ、大衆芸能や施設そのものの魅力を発信していくため、新たな広報ツールやネットワークを活用します。

■開場十周年企画を広報活動の絶好の機会ととらえ、施設のさらなる周知をはかります。

達成指標	実施内容報告
<p>■チラシ、ポスター等の印刷物の製作部数、形式、配布先や配布方法等を見直し、広報作業の効率化を図ります。</p> <p>■情報発信、相談窓口機能の拡充のため、webサイトのコンテンツやソーシャルメディアへの発信について検討、改善を行い、最新の情報を随時、かつ、適切な形で発信できる体制を構築していきます。</p> <p>■web展開等、より多くの方へアプローチできる発信方法を検討していきます(新規の広報媒体への掲載5件以上)。</p> <p>■広報誌「賑々」を開場十周年記念号として10,000部発行します。</p>	<p>■4月～12月までの「開場十周年記念」の期間においては、桂歌丸館長を前面に押し出したTV、ラジオ、新聞・雑誌等への取材対応を行いました。また、ネット、ミニコミへの情報提供、職員のラジオへの出演など、新規の取り組みを含めた多角的なプロモーションを展開しました。また、「有名会・名作落語」チラシのデザインを、七月興行からリニューアルしました。</p> <p>■webサイトのリニューアル作業を進め、これまでよりも情報の見やすさや、情報発信の即応性を強化したものにできるよう検討・制作を行い、公開の準備を完了しました。</p> <p>■これまで掲出実績の少なかった媒体に広告を出稿したり、京急線車内や市営地下鉄・バスにポスターを掲示しました。また、イベントPRサイト「イベントバンク」を経由したネットへの情報発信や、演劇系サイトへの情報投稿、みなとみらい地区への広報強化を目的とした「mirea」(タウン誌)への広告掲出、県の観光協会への加入、クラシック音楽の顧客をターゲットとした有料DMへのチラシ封入やコンサート会場でのチラシ配布など、幅広い対象へ新規のプロモーションを展開しました。</p> <p>■「賑々」の開場十周年特集号を発行しました。</p>



(5) 開館日数について

24年度
341日

(6) 利用状況等について

施設名	24年度	
	稼働率	利用者人数
芸能ホール	77%(75%)	68,915人
小ホール	55%(44%)	19,010人
練習室	(65%)	3,683人
制作室	(35%)	1,343人

※稼働率：日にち単位(時間帯単位)

## 6 施設管理に関する業務総括

### (1) 安全・安心・快適な施設の維持管理について

- 大衆芸能施設として、ハード及びソフトの両面から安全確保に努めます。またお客様アンケートの施設評価の満足度向上を目指します。
- 高齢者や身体障害者にも思いやり溢れる施設づくりを推進します。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■人身事故『ゼロ』の実現。</li> <li>■アンケートの快適評価 4.5 達成。</li> <li>■サービス介助士 2 級取得者 1 名確保。</li> <li>■消防訓練の年度内 2 回実施。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■管理者側責任による人身事故は『ゼロ』。</li> <li>■アンケート施設快適評価 → “4.46”</li> <li>■サービス介助士 2 級 → 24年度新規 1 名取得</li> <li>■消防訓練 → 11 月 / 2 月 計 2 回 実施</li> </ul>

### (2) 施設予防保全への取り組みについて

- 館内各箇所の日々の整備点検実施を目指します。
- 施設管理会社との月に 1 度の定例ミーティングの実施。(舞台装置、照明、空調、エレベータ他)
- マンション理事会との調整、連携強化を図ります。

達成指標	実施内容報告
<ul style="list-style-type: none"> <li>■職員レベルで対応可能な修繕は、1 週間以内に着手し速やかな修繕対応を心掛けます。</li> <li>■施設管理会社との定例ミーティングを(年間 12 回開催)実施。修理必要箇所の情報共有化を図り、スムーズな修繕対応を図ります。</li> <li>■マンション理事会の月 1 回参加により、共用部分に関する情報を積極的に入手します。</li> </ul>	<ul style="list-style-type: none"> <li>■日々の施設点検の中で、小破修繕箇所については、運営に支障が生じないよう的確に対応しました。</li> <li>■月例ミーティングを毎月実施。建物設備は、11 年経過で老朽化が進んでおり、特に運営上大規模修理必要箇所の情報共有し、優先度に応じて対処しました。</li> <li>■管理組合理事会に参加し、共用部分の情報入手に努めました。また、運営面において、横浜にぎわい座と理事会側との情報共有と相互理解に努めました。</li> </ul>

(3)その他管理に関する実施業務 (概ね百万円以上または第三者に委託して実施するもの)

業務内容	実 施 者
舞台技術業務	委託により実施：株式会社横浜アーティスト
建物総合管理業務	委託により実施：株式会社東急コミュニティー
舞台機構保守点検業務	委託により実施：株式会社東急コミュニティー
舞台音響設備保守点検業務	委託により実施：株式会社東急コミュニティー
舞台照明設備保守点検業務	委託により実施：株式会社東急コミュニティー

## 7 収支について

### (1) 経費削減や収入増加策について

- 経費削減:事業及び管理に関わる委託契約の見直し、人員配置の見直し、印刷費等、従来の経費執行体制の抜本的な見直しを行います。
- 収入増加:開場十周年記念事業をはじめとする自主事業の広報宣伝活動の強化、貸館事業における新規割引制度導入によるホールセールの特化を推進。施設への来場者数拡大による入場料収入や利用料金収入の増加に取り組みます。

達成指標	実施内容報告
<p>■積極的な経費削減策と収入増加策への取り組みにより、収支差額ゼロ以上を達成します。</p> <p>■厳しい経済情勢に見合った「健全な経営体質への転換」を図ります。</p>	<p>■平成 23 年度に比較し、管理委託経費や舞台委託経費の削減、印刷経費の見直し、人員配置の削減や臨時雇用職員の削減などにより、経費支出の大幅削減に取組みながら、開場十周年を契機としたにぎわい座事業全体の広報販促活動に取り組みました。</p> <p>他方、臨時雇用職員人件費の単価引き上げや財団内職員配置の影響による人件費の増加、光熱水費の値上げ、予想を超える緊急修繕案件の発生等により、経費支出の負担増が発生しました。</p> <p>■例年以上に積極的なプロモーション活動に取組み、入場料収入の増加に一定の効果はありましたが、結果として収支ゼロに届きませんでした。</p>

### 平成 24 年度 横浜にぎわい座収支報告書

収入	項目	予 算	決 算	差異(決-予)	備考
	指定管理料	194,501,000	194,501,000	0	横浜市より
	利用料金収入	20,000,000	18,526,700	▲ 1,473,300	
	事業収入	145,814,000	138,175,426	▲ 7,638,574	
	その他収入	200,000	1,661,034	1,461,034	
	合計	360,515,000	352,864,160	▲ 7,650,840	
支出	項目	予 算	決 算	差異(決-予)	備考
	人件費	88,108,000	91,880,530	3,772,530	職員 9+アルバイト
	管理費	115,420,000	116,833,645	1,413,645	施設管理委託費ほか
	事業費	140,512,000	142,019,899	1,507,899	
	事務費	16,475,000	15,812,810	▲ 662,190	
	合計	360,515,000	366,546,884	6,031,884	
	当期収支差額	0	▲ 13,682,724	▲ 13,682,724	

(2) 人員配置及び勤務体制について

① 人員配置

項 目	人 数	備 考
館 長	1	非常勤
副館長	1	
管理運営/事業運営チームリーダー	2	
事務職員	6	管理系 3、事業系 3
アルバイトスタッフ(事務)	2	
カルチャースタッフ(受付)	28	にぎわいスタッフ
舞台技術スタッフ	5	

② 勤務体制

基本: 館長を除くスタッフでのローテーション制による運営体制。

各日の事業状況、貸館状況によって配置人数は変動。

A: 事務室 (早番 9:30~18:15 最小2名、 遅番 13:30~22:15 最小2名)  
管理運営チームリーダー・事業チームリーダー、事務職員、アルバイトスタッフ

B: 受付窓口業務 (A勤務 9:45~13:55 B勤務 13:45~17:55 C勤務 17:45~22:00)

C: 舞台技術 (総括、音響、照明、舞台など事業及び貸館状況によって変動)

以上